

# 次世代EV研究会進捗状況

群馬大学 松村修二

## これまでの活動

### H22年

- 9月22日 第5回次世代EV研究会
- 10月初め  $\mu$ -TT2製作開始
- 11月11日 長野日本無線(株)殿と非接触給電について打ち合わせ
- 11月22日 自動車技術会「ワイヤレス給電システム技術部門委員会」の第一回準備会
- 12月10日 群馬大学白石研究室にて非接触給電の試験
- 12月13日 環境省プロジェクト「チャレンジ25」でマイクロEV( $\mu$ -TT2)の実証実験開始
- 12月13日 経産省地域イノベーション創出研究開発事業に応募  
テーマ「大容量リチウムイオン電池ポータブルモジュールの開発」

### H23年

- 1月 7日 第一回ワイヤレス給電システム技術部門委員会
- 1月13日 国交省安全性確認試験(熊谷の関東運輸局試験場)
- 1月17日 国交省プロジェクト「小型モビリティ事業」でマイクロEV( $\mu$ -TT2)の実証実験開始
- 1月19日 第3回意見交換会
- 1月19日 経産省地域イノベーション創出研究開発事業ヒアリング

# 非接触給電



長野日本無線(株)の磁気共鳴型  
非接触送電装置



非接触給電バス

- ・本研究会でも、基礎を理解するため簡単な実験装置を作り送電を行った。磁気共鳴ではないが、電磁誘導型として送電している。
- ・東大の堀先生主催の自動車技術会「ワイヤレス給電システム技術部門委員会」でも人体への影響や電波法の問題を含めて議論中。委員会では、磁気共鳴と電磁誘導は本来同じものなので区別しないでそれぞれの良いところを生かしながら進める。

# 地域イノベーション創出研究開発事業に応募

経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業(平成22年度補正予算事業)の公募があり、応募した。

本研究では、大容量(1kWh)かつ可搬式のリチウムイオン電池モジュールならびに、様々な電源からの充電、ならびに電気自動車用電源や非常電源等の多用途への応用を目指して、充電器モジュール、インバータモジュール等とのフレキシブルな組み合わせを可能にするシステムの開発を目的とする。

管理法人: 北関東産官学研究会

研究実施企業:

(株)日東電機製作所

(株)シントウギャザー



# 意見交換会

参加グループ：群馬大学次世代EV研究会、すみだ新製品開発プロジェクト実行委員会  
浜松Smallest Vehicle System Project、来賓（関東経済産業局等）、報道  
関係 計30名以上参加

本研究会から工藤さん（エネマネ分科会リーダー）、山田さん（インフラ分科会リーダー）が出席。

それぞれのグループから報告があったが、特記事項として浜松のグループから国土交通省に対して2人乗りマイクロEVの特区申請を行い拒絶された旨の報告あり。

## 【申請(提案)】

第二種原動機付自転車に(電動四輪)規格を追加し、実証実験特区を設定する。

## 【回答】

現状、0、6kwを超える車両について原動機付自転車の区分において公道走行を認めることは困難である。

この度、提案頂いた現行の原付以上、軽自動車以下の領域をカバーする超小型モビリティに対しては、新たに課すべき必要な安全性について検討を始めたところである。

超小型モビリティについては、超小型モビリティをどのように社会に受け入れるべきか、又、受け入れる場合の安全性の確保等はどうあるべきかの方向性について検討を行っているところである。

なお、これらの検討結果のほか、関係省庁と連携して車両区分の見直し等も含めた制度全体の整備が必要と思慮される。